

WANDO YAIZU

～立ち止まって考え、つながり、発見するまち～

青山学院大学 総合文化政策学部 川又ゼミ
たまわカルテット
本間風香、山口莉果、渡邊芽依、大橋錬太郎



WANDO

YAIZU

WANDOとは

WANDOは河川における特定のエリア、湾処（わんど）にちなんでいる。

湾処とは、流れの速い本川と繋がっているものの、流れが緩やかで水が溜まっているエリア。

また、生物の多様性に富み、複雑な生態系が形成されることも特徴である。

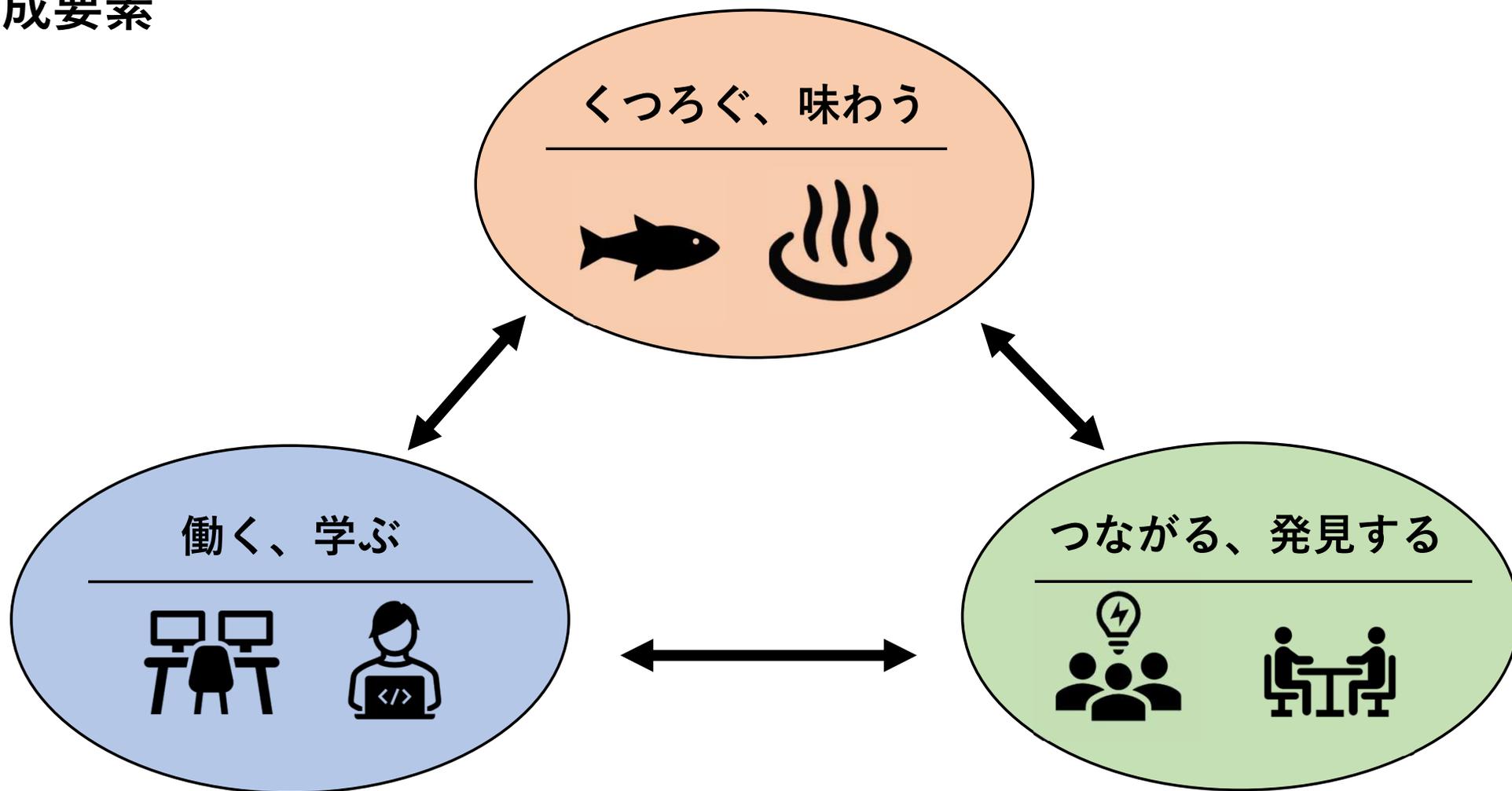
WANDO YAIZU とは

WANDO YAIZU は焼津をワーケーション地さらには働く人々のコミュニティとして魅力的な場所にすることを目的にしたスモールスタートの包括的なプロジェクト。

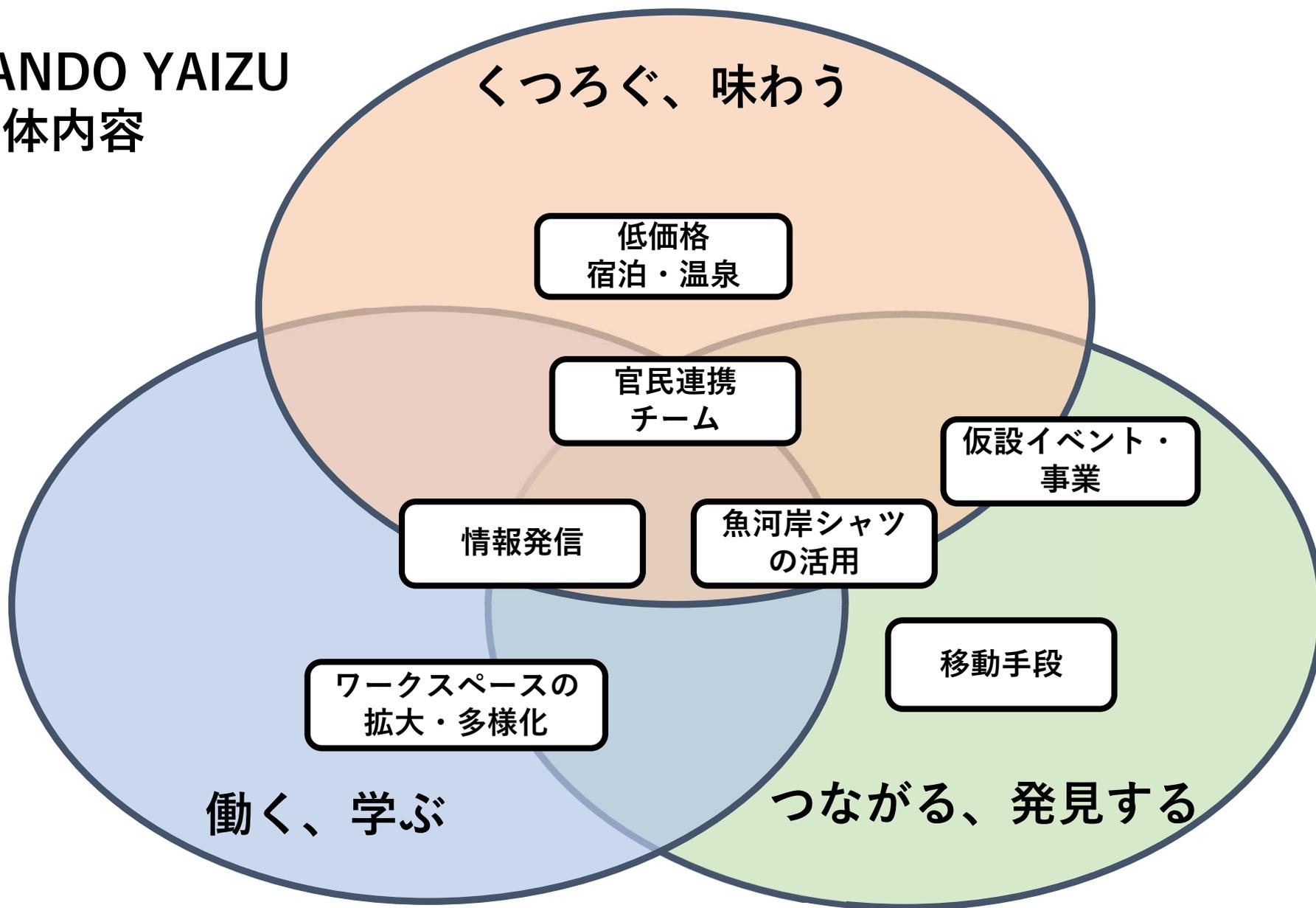
人々が速すぎる日常から一時的に逸脱して、立ち止まり、考える。さらに、そこで様々な背景や専門分野を持った人とつながり、新たな知識や視点を発見する。そのように、焼津が働く人々の「湾処」として営みの第二の拠点となることを目指す。

WANDO YAIZU

構成要素



WANDO YAIZU 具体内容



観光客ではなく、準住民

焼津におけるワーケーション

ワーケーションにもワークとバケーションを両端にグラデーションがある。「WANDO YAIZU」において目指すワーケーションはワークに少し寄ったものだ。より人々のワークの一部であり、よりそれにつながるものだ。



ターゲットと訪れる人の立ち位置

メインターゲットは関東甲信越の20代から40代のリモートワーカー。それらの人は非日常を望む観光客というよりも、日常の延長の中で気分を変えて仕事をする人を望む人であり、まちで生活するような感覚で焼津を訪れる「準住民」と位置付ける。

日常の中の温泉

温泉は旅行先の特別な体験というイメージが強い。しかし、焼津では住宅街に温泉施設が点在しており、観光客だけでなく多くの地元住民が利用している。準住民がワークスペースを利用した後にもふらっと立ち寄ることができる。たまにしか楽しめない贅沢ではなく、高水質の温泉を銭湯のように普段使いできるのが焼津の温泉の良さである。



<http://www.yaizu.gr.jp/onsen/>

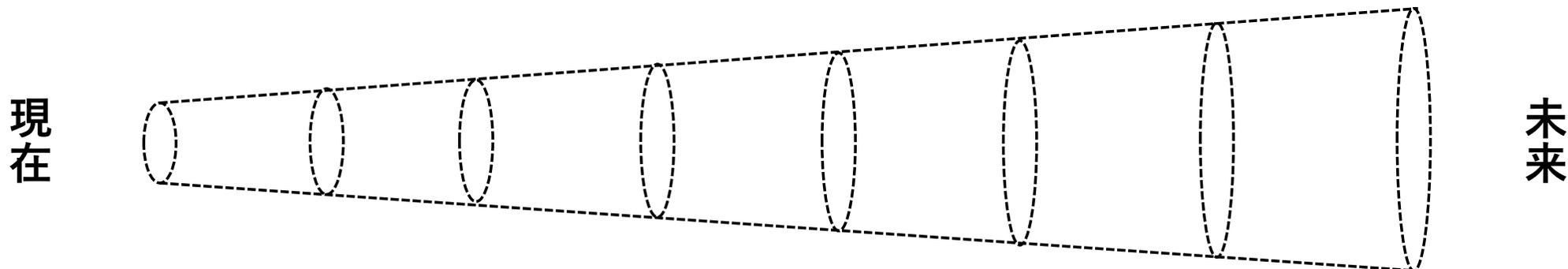
プロジェクト対象エリア

徒歩あるいは自転車での周遊の促進という観点から焼津市全体をプロジェクト対象エリアとすることは現実的でないと考えた。

左の図の範囲、特に焼津駅前の駅前通り商店街をプロジェクトのメインエリアと想定している。



「WANDO YAIZU」と焼津の未来



WANDO YAIZU

過度な観光化をせず焼津のらしさを活かすことで、焼津の中に暮らす人が好きな焼津を、外に暮らす人にも好きになってもらう始まりとしてのプロジェクト



焼津の未来コンセプト

ずっと暮らす人、
たまに暮らす人、
はじめて暮らす人、
みんな同じ焼津が好き。

焼津における、
「持続可能なまちづくり」とは

持続可能なまちづくりとは

ところで、

まちづくりにおいて、「持続可能」を実現するためには何に留意すべきだろうか。

私たちは以下の三つが重要だと考える。

持続可能なまちづくりとは

1

その土地のらしさを
知る、活かす



その土地のらしさがプランの制約になり、同時に強みになる。

2

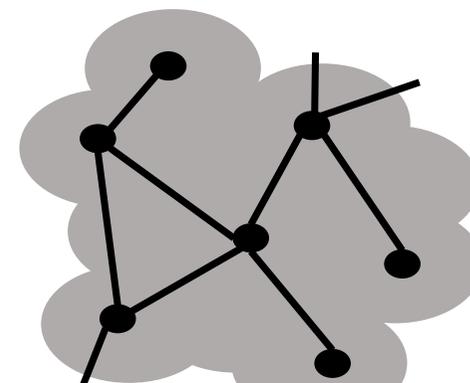
内発的発展の促進



内発的に何かを生み出さなければ、継続的な経済面での潤いは得られない。

3

更新され続ける柔軟性



まちを魅力的に保つには、そこにあるコンテンツや資源が更新され、新陳代謝された状態にあることが重要。

持続可能なまちづくりとは

1

その土地のらしさを知る、活かす

1. 観光地ではなく、水産のまち

焼津漁港は水揚げ量では全国第3位、水揚げ金額では全国第1位と、全国的にもトップクラスの漁港であり、市内外共にそのイメージが浸透している。漁協の方の話でも、水産関係者の多くは観光業に対しての意識は薄く、むしろ焼津の観光化をよく思わない方も多いという。観光化には保守的である空気が窺える。



上 (<http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/yaizu/index.html>)
下 (<https://www.furusato-tax.jp/feature/detail/22212/7660>)

持続可能なまちづくりとは

1

その土地のらしさを知る、活かす

2.温泉の規模・立地

2008年に新たな源泉「焼津港1号井」の完成により、良質な温泉の安定供給が可能な体制となったが、その規模は代表的な温泉地と比較して小規模である。

また、その立地も温泉街のように温泉が群集しているわけではなく、まちの中に点在しているといえる。

	焼津	熱海	箱根
源泉数	3	500以上	340以上
湧出量 (L/毎分)	約700	約18,000	約21,600



参考資料 (<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/970165.html>)
(<https://onsen.kankoujp.com/?p=44#toc3>)
(https://www.onken.odawara.kanagawa.jp/files/PDF/houkoku/45/houkoku45_p35-48.pdf)

持続可能なまちづくりとは

1

その土地のらしさを知る、活かす

3. 若い世代の取り組み

一方で、市内外からの若い世代がまちを盛り上げるために様々な取り組みをしていることも見受けられる。特に意識されているのがコミュニティ作りだ。駅前通りを中心に常設のカフェやワークスペース、あるいは仮設の施設でのイベントなども行われている。中には1000人以上が訪れるイベントもあるようだ。



上 (<https://womo.jp/column/detail/41959/>)

下 (<https://nine.sc/works/asobiba/>)

持続可能なまちづくりとは

1

焼津のらしさ

以上の三つの視点から、焼津の潜在的ならしさを以下のように定義しました。

“落ち着き・くつろぎ”

- 観光化に対する保守的な空気感
- 住宅街に点在する小規模な温泉
- 地元民に愛される海鮮定食屋や居酒屋



“学び・交流”

- コミュニティ重視のカフェやワークスペースの設立
- 多様な人々が集うイベントの開催

内発的発展の推進

焼津における内発的発展の原動力は、もちろん温泉などもそうであるが、規模からしてやはり水産業が主要だと言える。

特に注目すべきは、水産加工品だ。鮮魚と比べ保存が効き長距離の輸送も行いやすいため外需の取り込みが期待できるが、それら加工品の詳細や正当な価値が認知されづらいことが課題だ。そのための取り組みが焼津における内発的発展の促進に寄与すると考える。



左上) 鰹節、右上) かつおたたき、左下) なまり節、右下) 佃煮

参考資料 (https://www.city.yaizu.lg.jp/g05-001/suisan_kakouhin.html)
(<https://www.yaizu-uonaka.or.jp/tokusan/namaribushi/>)
(<https://oigawa-omiyage.net/foods/4453/>)

持続可能なまちづくりとは

2

課題：水産加工品の詳細や多様性、またはそれを作るのに不可欠な技術や手間を知ってもらい正当な価値を認めてもらうこと



消費者と生産者が密に交流する場の創造

内発的発展の源泉となる資源に正当な価値を認めてもらうことは不可欠である。
少しずつでも確実に、生産者の技術や手間が認知されるために、消費者と生産者が対話をする場が重要であると考える。

持続可能なまちづくりとは

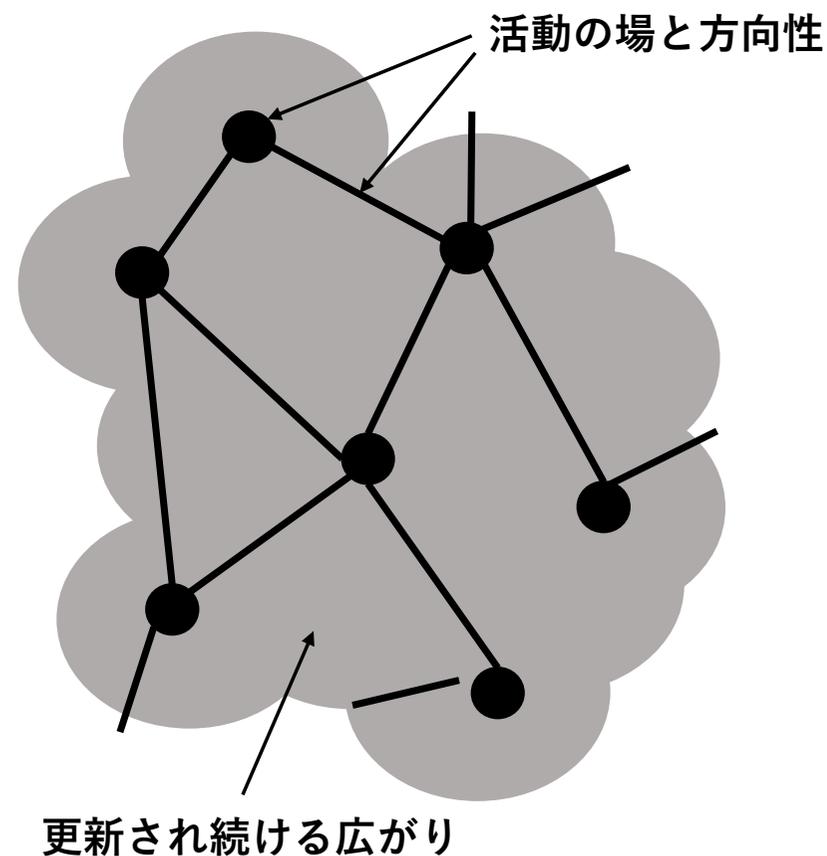
3

更新され続ける柔軟性

まちが魅力的であり続けるためには、そこにあるコンテンツや資源が更新され続けることが不可欠。

しかし、それを一つの主体が規定しコントロールし続けるのは限界がある。

そのため、さまざまな主体の活動を誘発し、また一方で全体としてそれらの活動に統一性が保たれていることが求められる。



持続可能なまちづくりとは

3

課題：様々な主体の活動を誘発しつつも、全体としての統一性を保たなければならない

“活動の場を確保する”

- 観光化に対する保守的な空気感
- 住宅街に点在する小規模な温泉
- 地元民に愛される海鮮定食屋や居酒屋

“全体としての方向性を示し続ける”

- まちとして魅力的になるためには、その統一性を維持しなければならない
- 変えるべきこと、変えてはならないことの判断

持続可能なまちづくりとは

① 焼津のらしさ

→ “落ち着き・くつろぎ”

×

”学び・交流“

② 内発的発展の促進

→ 消費者と生産者が
密に交流する場の創造

③ 更新し続けられる柔軟性

→ 活動の場を確保する

×

全体としての方向性を示し続ける

この3要素が有機的に結びついたプロジェクトとして、ワーケーション×コミュニティーの「WANDO YAIZU」が構成される。

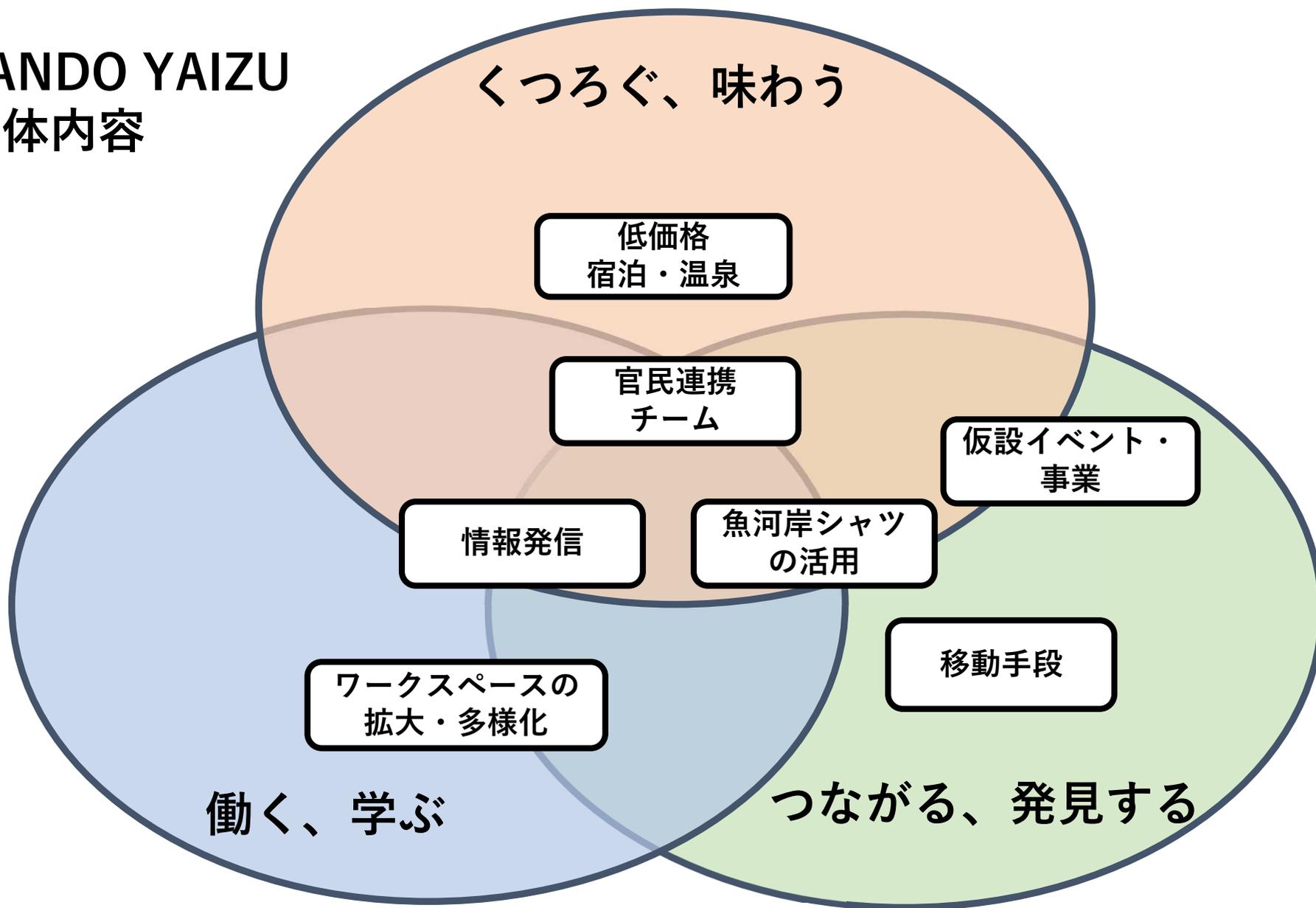


WANDO
YAIZU

WANDO YAIZU

具体案

WANDO YAIZU 具体内容



くつろぐ、味わう

働く、学ぶ

つながる、発見する

官民連携チーム

プロジェクトを進める際に、官民連携のチームを結成する。

🍃 チームの必要性

まちづくりには多くの組織、団体が関わるため、彼らの先頭に立って方向性を示しながら、個々の取り組みがプロジェクトの方針に沿っているのか確認する存在が必要である。

🍃 チームの構成員

今回のプロジェクトでは、焼津市役所や漁協組合の職員、温泉施設の経営者、市内で海鮮を提供している飲食店のオーナー、水産加工品会社の社員、焼津市民などが構成員に適していると考えます。

働く、学ぶ

つながる、発見する

ワークスペースの 拡大・多様化

WANDO YAIZU : ワークスペースの拡大・多様化

ワーケーション注目理由① 需要拡大

ワーケーションの需要は拡大しており、2025年度のワーケーションの国内市場規模は3622億円と20年度比で5.2倍に拡大する見通し。

(矢野経済研究所 (東京・中野))

国内ワーケーション市場規模予測



矢野経済研究所調べ

注1. ワケーションとは休暇を過ごす環境に滞在しながら、仕事をする働き方全般を指す。滞在にかかるサービス（宿泊インパクト）、飲食費など日中の活動にかかるサービス（地域インパクト）、通常業務以外の研修や合宿にかかるサービス（研修インパクト）、各省庁で予算化された事業規模（国家予算）を対象として、算出した。

https://image.itmedia.co.jp/1/im/business/articles/2103/27/1_kk_yano_01.jpg#_ga=2.246851396.1784574488.1660010754-2005069774.1660010748(2022年8月9日閲覧)

WANDO YAIZU : ワークスペースの拡大・多様化

ワーケーション注目理由② 焼津らしさを活かせる

ワーケーションに訪れる人は景観や温泉、食などでくつろぎたいという思いはある一方で、過度に観光化した観光地のような賑わいを好ましく思わない。

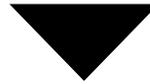
その点で、焼津の落ち着いた雰囲気はワーケーションに訪れる人の需要を満たすと考えられる。



上 (<https://yaidu.jp/>)、下 (<https://travel-noted.jp/posts/9209>)

WANDO YAIZU : ワークスペースの拡大・多様化

焼津らしさを活かしたワーケーションの場づくりが求められる



ワークスペースの拡大・多様化

個人向け、複数人向け、あるいは企業のサテライトオフィスやラウンジなど、様々な需要に応えるためのワークスペースやその設備の拡大・多様化をすることが求められる。

WANDO YAIZU : ワークスペースの拡大・多様化

既存施設

- 📍 焼津PORTERS (個人・少数向け)
- 📍 Homebase YAIZU (複数人・小規模会社向け)

提案施設

- 📍 RALLY YAIZU (ラウンジ)



WANDO YAIZU : ワークスペースの拡大・多様化

既存施設 1 : 焼津PORTERS (個人・少数向け)

こんな時代だからこそ、新しい「港」をつくりたいという
思いのもとに

「新たな交流を生み出す場」

「水産業と異業種とのコラボレーションを促進させる場」

「歴史と文化を継承しつつ新たな港街のモデルとなる場」

「チャレンジし続ける人々が集う場」

として漁具倉庫をリノベーションしたコワーキングスペース。

最大50名様利用可能でシャワー・トイレ・駐車場も完備。



WANDO YAIZU : ワークスペースの拡大・多様化

複数人・小規模会社向けワークスペース

既存施設 2 : Homebase YAIZU (複数人・小規模会社向け)

港町 焼津の商店街にある空き店舗をリノベーションしたコワーキングスペース。

単なる〈作業場所〉ではなく、

コワーキングスペースに多様なクリエイターが集まり、地元の企業・行政とのコラボレーションが進み、焼津のみらいをカタチにするプロジェクトが次々と生まれることを目指す場所。

仕事場や、打ち合わせ、撮影スペース、イベントスペースなど様々な用途で1日500円から利用可能。

ホームページ

<https://yaizu.homebase.sc>



上 : <https://yaizulife.jp/wp-content/uploads/2018/12/103A9406.jpg>

下 : <https://yaizulife.jp/wp-content/uploads/2018/12/b5c6d45f2f1890bc792b42f8358a6e14-1024x681.png>(2022年8月9日閲覧)

WANDO YAIZU : ワークスペースの拡大・多様化

提案施設：RALLY YAIZU (ラウンジ)

焼津駅前商店街の空きスペースを利用し、ラフに仕事をしたり、雑談をしたり、あるいは軽食などのテナントスペースがあるラウンジ、「RALLY YAIZU」を設営。イベント開催の受け皿としても機能。

事例)
新横浜の旧郵便局を改修した地域の文化複合拠点
「ARUNŌ -Yokohama Shinohara-」

(<https://www.bing.com/ck/a?!&&p=91f6d7e36276f644JmldHM9MTY2MDAwMzlwMCZpZ3VpZD0wZDIzMzhjMy05ZDNhLTlxYmUtMmRlOC0zNjdkOWM0NjYwZTgmaW5zaWQ9NTQxNw&ptn=3&hsh=3&fclid=0d2338c3-9d3a-61be-2de8-367d9c4660e8&u=a1aHR0cHM6Ly9wcnRpbWVzLmpwL21haW4vaHRtbC9yZC9wLzAwMDAwMDAwMy4wMDAxMDIwOTeuaHRtbA&ntb=1>)



上 (<https://www.japandesign.ne.jp/news/2022/08/66570/>)

下 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000102091.html>)

WANDO YAIZU : ワークスペースの拡大・多様化

💡 ワークポイントの導入

焼津市内のワークスペースを利用すると、その利用時間ごとにLINEでポイントが貯まる「ワークポイント」制度を導入。

貯まったポイントは対象の日帰り温泉施設や焼津市内の飲食店で利用可能。



ワークスペースを核に、
「学ぶ」「つながる」「くつろぐ」の
「WANDO YAIZU」サイクルを促進。

イメージ



<https://gaiax-socialmedialab.jp/wp-content/uploads/00210.png>(2022年8月9日閲覧)

くつろぐ、味わう

つながる、発見する

仮設的な イベントや事業

WANDO YAIZU : 仮設的なイベントや事業

駅前通りから“交流”と“更新”を

周遊を促すには「歩いて楽しい」コンテンツが不可欠。
そのコンテンツ作りを、まずは駅前通りから仮設的・実験的に始めるためのプラン。

そこは地元民と観光客とが交流する場であり、
また様々な主体がその活動や技術、商品などをコンテンツ化できる受け皿となり、焼津全体の価値を伝え、更新し続ける場でもある。

仮設的なイベントや事業の利点

小さく始められる

- 出店者側は初期投資などが少なく済むため、ローリスクで始められる

交流が生まれる

- 比較的出店者と消費者の距離が近いため、会話が生まれやすい

変化に柔軟である

- コンセプトや制約を変えれば、同じ土地や設備で多様なコンテンツを提供することができる

WANDO YAIZU : 仮設的なイベントや事業

具体案 1 : 軒先マルシェ

いきなり建物を借りるのは費用面でも精神面でも負担が大きいが、軒先を一時的に借りて簡易的なテントなどでマルシェに出店するのは気軽ではないだろうか。人気が出れば、常設の店舗を持てばいいし、イマイチであればやり直せる。実験的な事業やイベントの受け皿として機能することを期待する。

マルシェコンセプト例

- 鯉節おもしろ活用
- ワークスペースの便利グッズ



上、右下 (<https://www.realtokyoestate.co.jp/column.php?n=1221>)

左下 (<https://www.nul20.nl/dossiers/slotermeer-vernieuwing-herkansing>)

WANDO YAIZU : 仮設的なイベントや事業

具体案 2 : 海の幸 one day shop

駅前通りの空き家を利用し、あるいはプレハブを設置して毎日～数日ごとに店主が変わる店舗を設営。焼津の水産加工品を中心に、魚河岸シャツなどの生産者や関係者が出店することで、生産者と消費者が密に対話をし、商品の価値を知ってもらう機会を創出。頻繁に内容が変わるコンテンツであるため、消費者には魅力的であるし、各生産者側も常設の店舗を持つより負担が少なく、しばらく間を空けて出店すれば内容を更新できる。

事例) コミュニティ再生プロジェクト
CASCOLAND VAN DENYSSELが運営するone day shop



上、右下 (<https://www.realtokyogestate.co.jp/column.php?n=1221>)
左下 (<https://www.nul20.nl/dossiers/slotermeer-vernieuwing-herkansing>)

WANDO YAIZU : 仮設的なイベントや事業

具体案 3 : アーケードスタンド

駅前通りの歩道にはほとんどアーケードが掛かっている。その下にスタンドやものがおけるベンチを設置してみる。地元民がそこでひと休みしたり、ワークスペースで働いていた人がコーヒー片手に風にあたったり。夜はビールを飲みながら談笑したり。人が立ち止まる場所を作ることによって新たな交流が生まれるきっかけになるのではないだろうか。

事例 1) 上野仲町通り 街灯スタンド (写真上)

事例 2) 池袋「グリーン大通り」 (写真下)



上 (<https://www.tokyo-np.co.jp/article/61200>)

下 (<https://www.tokyoupdates.metro.tokyo.lg.jp/post-562/>)

くつろぐ、味わう

低価格での 宿泊施設・温泉プラン

WANDO YAIZU : 低価格の宿泊 施設・プラン

焼津温泉を楽しめる観光客用ホテル・旅館の宿泊費は3~4万円と高価格帯で、

「WANDO YAIZU」が想定するターゲット層やモデルコースには適当でない場合があると考えられる。



低価格での宿泊施設・温泉利用プランの提供が求められる。

WANDO YAIZU : 低価格の宿泊 施設・プラン

具体案 1 : ユースホステルの導入

ユースホステルの宿泊費は平均3000円前後と低価格帯の施設であるといえる。また、運営側にとっても、その建物は空き家などのリノベーションであることが多いことや一般的なホテルなどのサービスが不要なことは負担の軽減になる。加えて、ユースホステルの宿泊者の交流を重視する性質や運営者は地元民が務めるのが基本であることに、「WANDO YAIZU」と協和性があるといえる。

<http://www.iyh.or.jp/whatsyh.htm> |



上 (<https://butoboso.blog.fc2.com/blog-entry-6.html>)
下 (https://www.tripadvisor.jp/LocationPhotoDirectLink-g1066457-d304302-i109831531-Tokyo_Central_Youth_Hostel-Shinjuku_Tokyo_Tokyo_Prefecture_Kanto.html)

具体案 2 : 日帰り温泉の利用促進

普段使いの温泉という趣旨から、高価格帯ホテルや旅館の温泉もワーケーションに訪れた人々に気軽に利用してもらう工夫は必要である。



- 駅前⇔各ホテル・旅館の日帰り利用向けシャトルバス 導入・増量
- 日帰り利用にもワークポイントを利用可能にする



上 (<https://www.jalan.net/yad325511/>)

下 (<https://www.sn-hotels.com/ygh/onsen/>)

くつろぐ、味わう

働く、学ぶ

つながる、発見する

魚河岸シャツ の活用

WANDO YAIZU : 魚河岸シャツの活用

魚河岸シャツ



準住民（ワーケーションに訪れた人）の仕事着

WANDO YAIZU : 魚河岸シャツの活用

具体案

- ワークスペースでワーケーション期間中貸出す
- 準住民用オリジナルデザインを開発

効果

- 魚河岸シャツを着ている住民が多くいるため、ワーケーションに訪れた人が心理的に地域に馴染みやすい
- 住民から見ると、ワーケーションに訪れている人だと一目でわかり、セキュリティ効果がある
- 魚河岸シャツの訴求機会になる



上 (<http://www.pref.shizuoka.jp>)

下 (<https://www.city.yaizu.lg.jp/photo-news/2022/0701.html>)

つながる、発見する

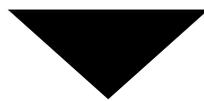
移動手段

WANDO YAIZU : 移動手段

現地調査の際にエリア内をほとんど徒歩で移動していたが、なんらかの移動手段が必要だと感じた。

一方焼津市内を周回するバスは本数が少なく、観光客の足としての役割はあまり期待できない。

また、市民の多くは日常的に車で移動しているため、バスの本数や目的地を増やしても利用者の大幅な増加は見込めないと考えた。



シェアサイクルの導入

WANDO YAIZU : 移動手段

シェアサイクルとは？

自転車を他の人と共有で使うサービス。使いたい時間だけ料金を払って利用する。各所にステーションが設置されており、借りた場所以外でも返却が可能。

メリット

環境に優しい、運動になる、好きな時間に好きな場所に行くことができる。

→立ち止まって考え、発見するというプランのコンセプトとも合致する。

導入にあたって

- 運営母体の決定やステーションの設置場所の選定、導入後の管理は官民連携チームが先導する。
- 採算性を確保するためには、再配置業務の効率化や広告掲載が有効。

WANDO YAIZU : 移動手段

導入事例：いずなかシェアリング

静岡県内でも数カ所導入事例があるうちの一つ。
伊豆の国市内を中心に展開するシェアサイクルサービス。

「HELLO CYCLING」というシェアサイクルの運営会社と業務提携により、セキュリティや売上情報の管理などのサービスが受けられ、またスムーズな導入のサポートも受けられる。



上 (<https://izunakasharing.hellocycling.jp/>)

下 (<https://www.hellocycling.jp/privacypolicy/>)

くつろぐ、味わう

働く、学ぶ

つながる、発見する

情報発信

外部への情報発信①：ラインでの情報発信

より多くの人にこのプランを知ってもらうために使用するのがラインだ。

焼津市の情報発信用ラインアカウントの友達の数は現在約14万人と非常に多い。焼津市のラインアカウントでは温泉の割引券などを配布しているため、一度焼津に足を運んだ外部の人々が数多くこのアカウントを追加していると考えられる。またラインは幅広い年齢層に支持されているツールであり、トーク画面にて友達追加している人に確実に、また効率的に情報をメッセージとして発信することができる。

このラインを使い、プランを外部の人に発信していく。

焼津市のライン公式アカウント



外部への情報発信②：Vlog投稿

焼津は、都会の喧騒から離れ一息つくのに、また、ワーケーション地、働く人々のコミュニティとして、最適な場所である。しかし、「魚」以外の魅力はまだ広く知られていない。



そこで、焼津でのリモートワーカーの一日を撮影・編集し、Vlog形式でYouTubeに投稿する。動画ごとに登場人物や場所を変え、焼津でのワーケーション生活のイメージづくりを行う。WANDO YAIZUが提案するワーケーションの様子を映像や音楽と合わせて発信することで、多くの人に認知してもらう。



内部への情報発信：ひよっこり広報テント

情報発信は外部だけでなく、内部へも欠かせない。住民を含めた様々な地域の構成員に、まちが目指している姿を示し続けるための機会を創出する必要があるが。地域の広報誌などでは、他の情報に埋もれたり、そもそもあまり関心を持って見られなかったりする恐れがある。



「ひよっこり広報テント」

仮設的に一定期間だけ設置される広報テント。駅前や漁港周辺など様々な場所に現れる。官民連携委員会での決定事項などをパネルなどで共有する場であり、また住民などの不満や提案を収集する場でもある。

気軽に入出りできるデザインが好ましい。足を止めてもらうため、飲み物を出したり、ベンチを設置するなどの工夫が必要。



事例) ポスターの野外展示イベント

(<https://www.murauchirent.co.jp/tool/%e3%82%ae%e3%83%a3%e3%83%a9%e3%83%aa%e3%83%bc%e3%83%91%e3%83%8d%e3%83%ab%e3%80%80/>)

モデルコース

ペルソナ

Aさん・28歳女性・都内WEBデザイナー



- ・アイデアに行き詰まったためリフレッシュがしたい
- ・人と話すのが好き

10:00 焼津駅に到着

10:15 暑いのでプレイボールカフェでお茶、素敵なノートを読み創作意欲が湧く

12:00 カフェで聞いたおすすめのお店アヤナイにて昼ごはん

13:30 焼津PORTERSにてリモートワーク、時々外に出て海を眺めてリフレッシュ

17:00 仕事が終わリワークポイントを使い、なかむら館で焼津温泉を堪能

19:00 商店街でお弁当を買いホテルくれたけインに宿泊

ペルソナ

Bさん・32歳男性・都内IT企業

- ・ 食べることが好き
- ・ 色々な人のアイデアを聞くのが好き

10:00 焼津駅に到着、自転車を借りる

10:30 焼津PORTERSにてリモートワーク

13:30 焼津PORTERS近くのかどやでお昼ごはん

14:30 少し歩いて商店街に到着、Homebase YAIZUを見つけ、働いていた人と様々な話を
する

17:30 商店街のビール屋に立ち寄る

20:00 元湯 なかむら館で温泉を堪能、ホテルシーラックパル焼津にて宿泊



ペルソナ

Cさん・56歳・都内会社員



- ・日本酒が好き
- ・都心に疲れ、安らげる環境を求めている

10:00 焼津駅に到着

10:30 散歩をしながらゆっくり焼津PORTERSに移動、リモートワーク開始

13:00 焼津PORTERS近くの地魚定で昼ごはん

14:00 魚河岸シャツ屋さんを見つけて立ち寄る、デザインが気に入った一枚を購入

15:00 商店街に立ち寄る、Homebase YAIZUを見つけ再びリモートワーク

18:00 地元の人に教えてもらった居酒屋にじいろで魚介と日本酒を嗜む

20:00 湊のやど 汀家に到着、温泉に入り宿泊